

仙台大学通信教育指導室メールマガジン 第61号

通信教育指導室から、こんにちは。

今回は、楽しく力がつく国語授業をつくる「10のしかけ」を紹介しました。今回から、実際に教育実習で使う東京書籍の教科書の教材をとり上げ、「しかけ」を使った具体的なアイデアをいくつか紹介していきます。

今回は、『あたらしいこくご1下』の「スイミー」について考えます。



桂聖先生

1年「スイミー」…… 時間の流れに沿って配置する

【事例】1年生「スイミー」(おはなし)

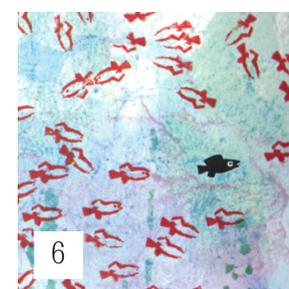
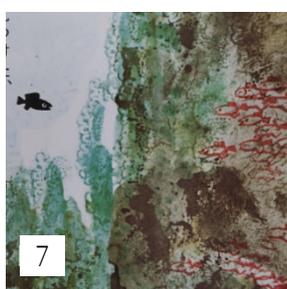
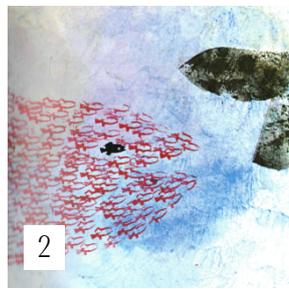
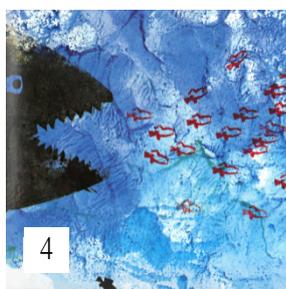
『あたらしいこくご 1下』(東京書籍 2020) p.119

本教材は、場面の移り変わりが明確で、時間の流れに沿って、場所が移動していきます。挿絵を時間の流れに沿って分類していくことで、物語の構造を視覚的にとらえることができます。

教科書に出てくる8枚の挿絵を準備し、次のように問いかけます。

T: 最初に出てきたのは「大きないせえび」だったね。

と言いながら、1の挿絵から順番に8の挿絵まで、黒板の下の方に順番に貼っていきます。



すると子どもたちは、

C: 違うよ。スイミーときょうだいたちが楽しく暮らしていたところから始まるよ。

と反論するはずです。

そこで、子どもたちの意見にしたがって6の挿絵を黒板の上の右端にはり直しながら、

T：それでは、スイミーのおはなしを思い出してください。今日は、8枚の挿絵をおはなしに出てきた順番に並べかえてもらいます。6番の絵の次はどれかな。

C：スイミーたちがまぐろにおそわれるところだから、4番の絵だと思います。

T：みんなはどうか？ それでは、こんな風にペアになって話し合い、おはなしの流れに合うように挿絵の正しい順番を考えてください。

ペア同士の情報交換の時間も確保し、子どもたちの発表を基に挿絵を並べていきます。

2 ← 7 ← 8 ← 5 ← 1 ← 3 ← 4 ← 6



挿絵が正しい順番に並んだところで、黒板の真ん中に横に線を引きます。

T：線の上が、海の浅いところだよ。そして、下が海の深いところ。さあ、スイミーがいたところを考えていこう。スイミーは初め、深いところにいたんだよね。

と言って、6の絵を下の「ふかい」という欄に移動します。

C：先生、違うよ。最初は浅いところにいたんだよ。

T：ほんとう？ 初めに浅いところにいたなんて、どこにも書いてないよ。

C：えーっ、まぐろにおそわれてから、深いところにいったって、書いてあるよ。

こんなやりとりをしながら、子どもたちは、本文の言葉を手がかりに「まぐろが登場したあとに、底に逃げた」「追い出したのは、朝ってわかるころだし、かがやくってあるから浅いところだよ」などと話し合いながら、どの場面かを考えていきます。



教師は、子どもの言葉を整理して板書したり、挿絵を動かしたりしながら、スイミーが海の中を移動していった様子を、時間や出来事をもとに整理していきます。

このように、挿絵を分類する手がかりとなる言葉を本文から探すことで、時間の経過や出来事を表にまとめることができ、物語を構造的にとらえることができます。